

COP26(グラスゴー気候合意) 気候危機とカーボンニュートラル社会



1. 国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)
グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact)
2. 気候危機(Climate Crisis)とカーボンニュートラル社会
3. 三重県地球温暖化防止活動推進センターの役割と
グローバル人材育成

朴 恵淑 park@mie-u.ac.jp

三重大学特命副学長(環境・SDGs)

WHOアジア太平洋環境保健センター(WHOACE)所長

三重県地球温暖化防止活動推進センター長

COP26 グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact)

(1)1.5度

世界の気温上昇を1.5℃未満に押さえるための削減強化。2030年に温室効果ガスの45%削減(2010年比)、今世紀半ばまでにネットゼロ。

→ 気候危機(Climate Crisis)・科学(IPCC第6次評価報告書)と政治の融合・各国の2030年削減目標(NDC; Nationally Determined Contributions)の見直し(2025年に提出)

(2)脱化石(石炭)

石炭のフェーズアウトの加速—先進国は2030年までに廃止/途上国は2040年までに廃止(段階的廃止)・電力の脱炭素化

→ 再生可能エネルギー・イノベーション

(3)パリ協定のルールブック完成

市場メカニズム。CO2排出枠「クレジット」—2国間クレジット制度・国連主導型取引

→ カーボンプライシングの導入

(4)資金援助

先進国が発展途上国への支援資金を提供する。2024年までに新しい目標を作る。

(5)地球温暖化へ適応と被害救済(損失と被害; Loss and Damage)

温暖化の悪影響への適応能力を向上させる。グローバル適応目標を 検討。

* (6) 若者育成

→ グローカル人材育成

* (7) パートナーシップ

政府と非政府(産業・学界・市民)アクターのパートナーシップ/若者・女性・地方自治体

* (8) 気候危機と健康被害

→ WHO (温暖化による死者; 年間約25万人予想/大気汚染による死者; 年間約700万人予想)

Strategy of CO₂ Reduce in Japan

* 今のNDCでは、世界の温室効果ガスの排出量は2030年に
13.7%増加(2010年比), 2.7°C上昇へ

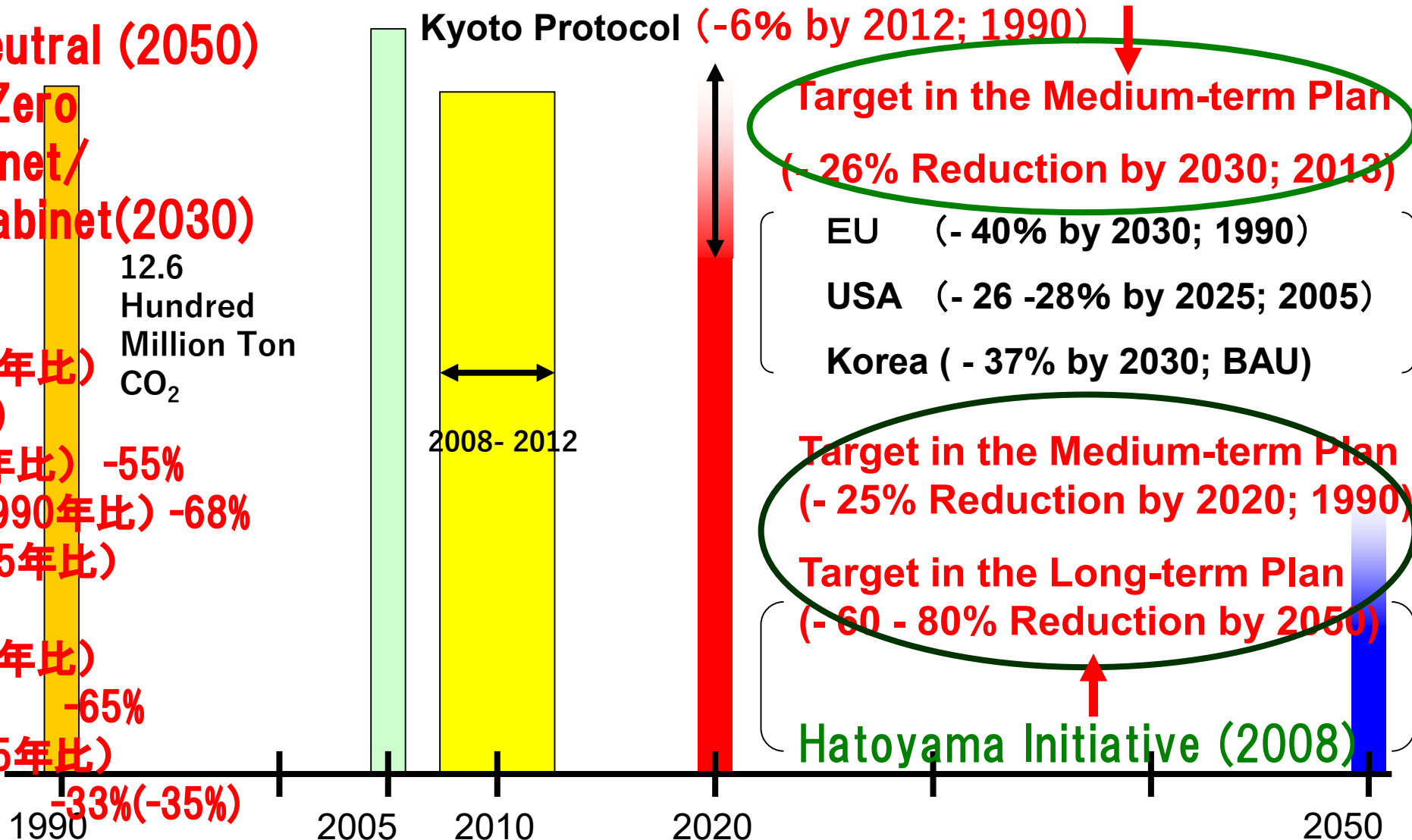
Carbon Neutral (2050)

GHG Net Zero

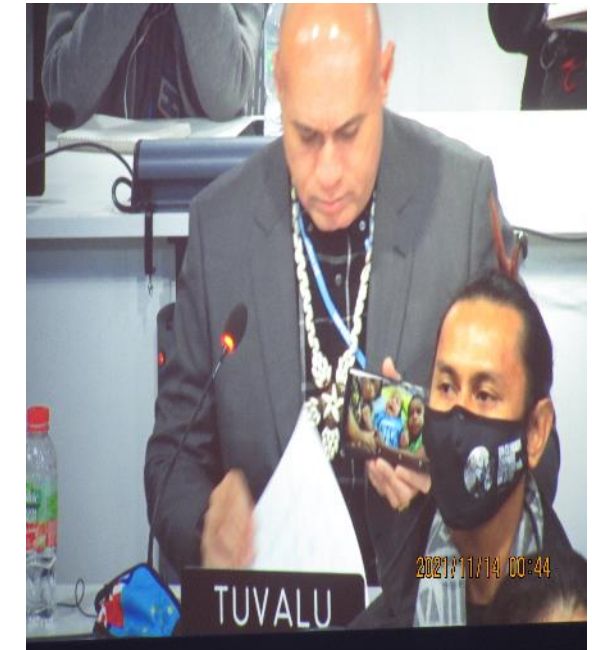
Suga Cabinet/
Kishida Cabinet(2030)

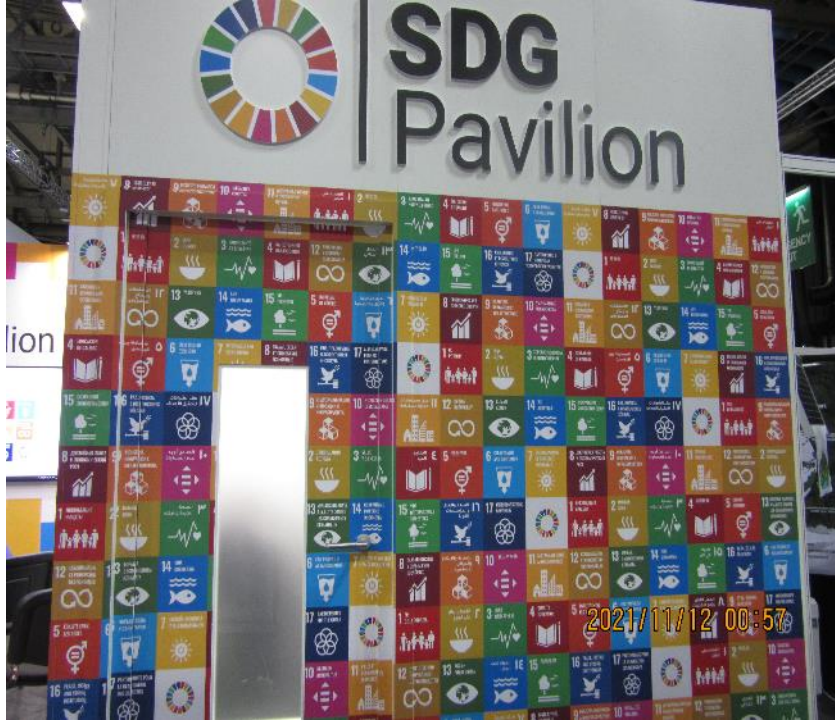
↓

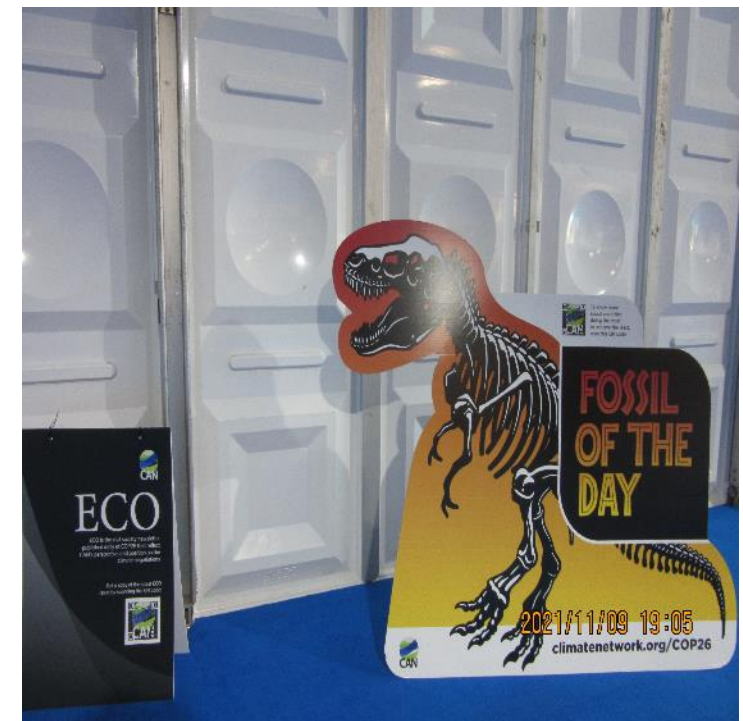
- ・日本(2013年比)
-46% (-50%)
- ・EU (1990年比) -55%
- ・イギリス(1990年比) -68%
- ・U.S.A.(2005年比)
-50% (-52%)
- ・中国(2005年比)
GDP当たり -65%
- ・インド(2005年比)
GDP当たり -33%(-35%)

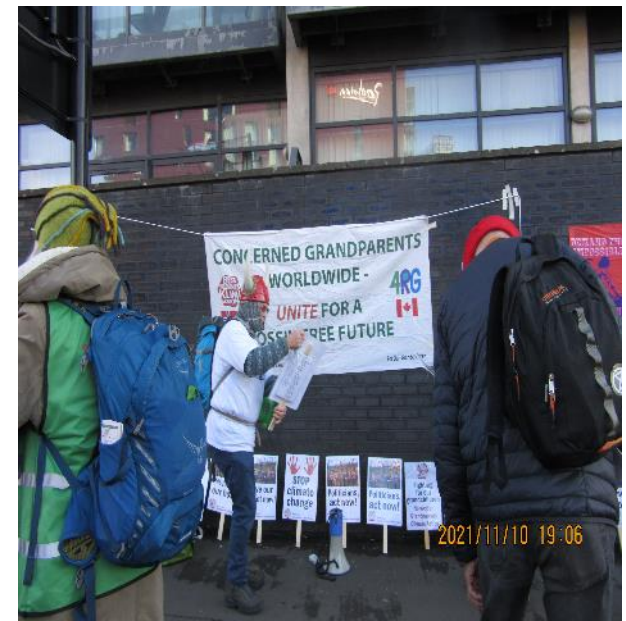
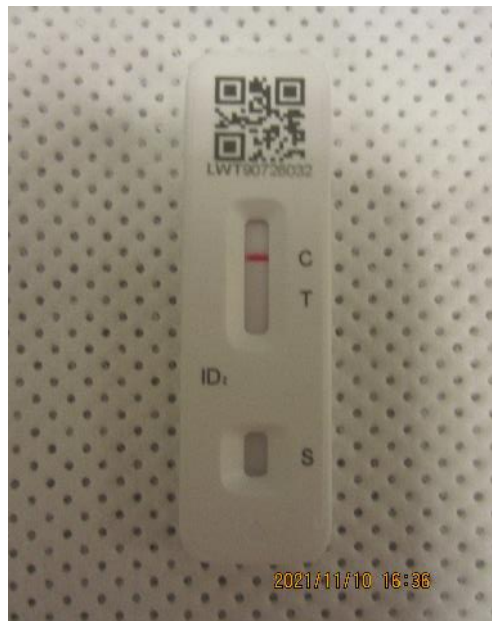
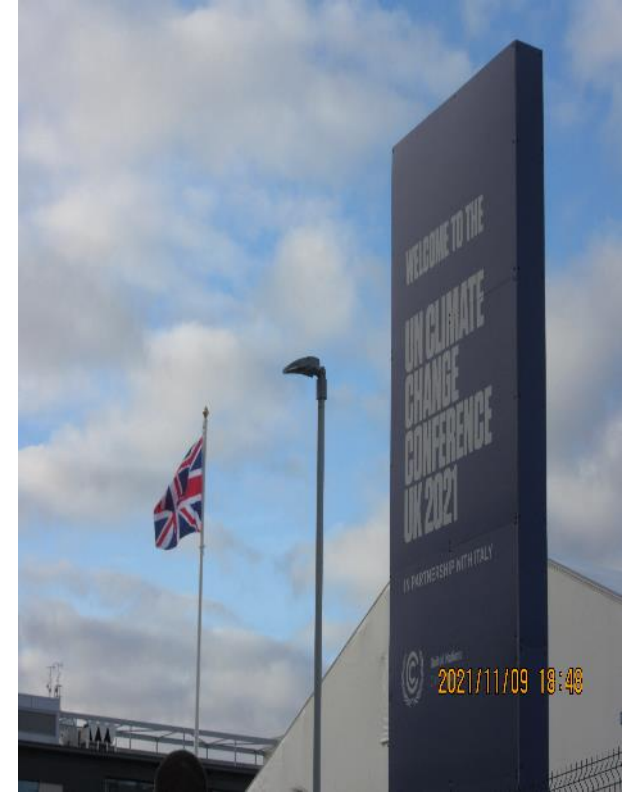


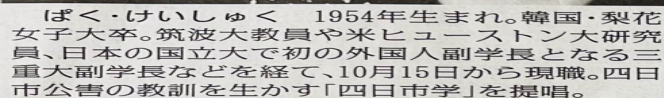
国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26） グラスゴー気候合意(Glasgow Climate Pact) 2021.10.31-11.13











ける戦例踏襲型となり、豪華に出遅れねません。失敗を前向きにとらえ、各国と共有し、成功の種にも土壌づくりが切です。

ご意見をお寄せください。〒100—8051毎日新聞「オピニオン」係

WHO地域事務局センター所長 朴 恵淑 氏

英國で開催された地球温暖化問題を話し合う国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）には、健康問題に取組む世界保健機関（WHO）の関係者が出席した。人類は生存を脅かす問題とどう向きあうのか。出席したWHOの西太平洋地域事務局の理事級アジア・太平洋環境保健センター初代所長に聞いた。

【聞き手・田中泰義、写真・前田梨里子】

 **ベスト**

ペスト菌を保有する動物ネズミなどの野生動物からノミを介して感染する。潜伏期間は数日で、発熱や頭痛、寒熱などの症状が表れる。皮膚が黒くなる特徴から「黒死病」とも呼ばれる。北里柴三郎が1894年に菌を発見し、抗菌薬が開発された。近年はアフリカで流行している。

で築いた各国の研究家、NCCとの連携を活用し、環境保全公衆衛生が密接に関係していることが共通認識となるよう、基礎整備に取り組みます。COP26で、オバマ元米大統領らが若者の役割に期待する演説をしていました。が、視野が広く論理的な思考を持った人材を育てる教育活動も重要です。

——日本にはどのような貢献を期待しますか。

日本にはどのような貢献を期待しますか。

—WHOは、環境分野自ら、低く、感染症を曇が原因になつた高齢者の死亡率は過去5年間、で1・5倍に高まつていると指摘しました。温暖化問題の解決、なにも健康問題と解決せず、逆もは、下水道、備を劣悪な環境が原因となつた。近頃は、森林伐採まで野動物由来ウイルスが人間社会に入ってきました。新型コロナウイルスもコロナリ由来とみられています。今年9月、

本が打てない人がいます。こうした人々こそ、交響ほど温暖化の影響を受けやすい最も弱い立場にいます。命の危険が迫っている現実に目を向けよう。

――10月にシア・太平洋環境保健セミナーの初代所長に就任しました。環境問題などにどのように取り組まれますか。

高度成長期に、深刻な公害を起して発生し、多くの人が健康被害に見舞われる苦い歴史があらまです。ちょうど50年前に環境庁が発足し、その後の規制・技術世界のお本です。コナ工

では、マシナリに代表される高度衛生意識が評価されました。地元の三重で、海は一定の大きさになるまでアブリを取らないな

英ランセットなど各国の医学誌編集者が気候変動と健康に関する共同論説を発表し、脱水や腎機能

—今会議をどう評価しますか。

総合評価は合格です。パリ協定で「世界の平均気温の上昇幅1・

の組む国際環境（NO）の代表も務めていますが、各団体は異なる言語や文化、価値観を基に「なぜ一緒に取る組むのか」と難色を示すことも多いのが切です。

しました。隣国の大気汚染は自国に影響が及ぶデータを示しながら、相互理解を深めていきました。

聞て一言

**UN持続可能な開発目標
(SDGs) 2015.9.
2016-2030
17 Goals - 169 Targets**



◎ 大変革
Transforming
our world
◎ 誰一人取
り残さない
No one will
be left behind



気候変動
(Climate
Change)
↓
気候危機
(Climate
Crisis)

ウィズ・アフター・ポストコロナ時代を生きる～ニューノーマル社会

(1) ウィズ・アフター・ポストコロナ時代に向けてパラダイム・シフト

- ① グローバルとローカルとの融合(グローカル)
 - グローバル化かローカルか から グローバル と ローカルへ
 - 産業の国際的分業化 から 国内産業 へ シフト
- ② 都市と地域創生
 - 都市か地域か から 都市 と 地域の共生
 - テレワーク、オンライン 普及による職場と住居の概念変化
- ③ 持続可能な社会(サステナブル社会)へSDGs
 - 経済か環境か から 経済 と 環境 と 社会へ調和

(2) 三重の強みをさらに強く、弱みを補うレジリエンス(しなやかな)イノベーション

- ① 豊かな自然(山―川―里―海)
 - 日本一の内湾(伊勢湾)
- ② 四日市公害克服の教訓
 - 経済と環境の調和、持続可能な社会(SDGs)のトップランナー
 - 過去の負の遺産を未来の正の資産へ、共通価値の創造(CSV)
- ③ 産業(イノベーション)
 - 伝統技術、先端技術の拠点
- ④ ダイバーシティー社会(多様な文化)
 - 日本の心のふるさと(伊勢神宮、熊野三山)
 - 東西文化の十字路

(3) 国連持続可能な開発目標(SDGs; ピンチをチャンスに変えるツール)→ 三重県地球温暖化防止活動推進センター

- ① 脱炭素社会・カーボンニュートラル社会中部創生―科学的・経済的イノベーション
- ② グローカル人財育成
- ③ 情報発信